

令和2年度

第五中学校 技術科 評価について (休校から)

基本的な考え方

技術科では『生活や技術への関心・意欲・態度』『生活を工夫し創造する能力』『生活の技能』『生活や技術についての知識・理解』の4の観点を、それぞれでA、B、Cの3段階で評価します。そして、その4観点のA、B、Cの組み合わせによって5段階の評定が決まります。4観点はどれかを特別に重視することなく、均等に扱い評価します。評価した点数の合計による評定は以下の組み合わせです。

『観点別評価 Aを→3点, Bを→2点, Cを→1点 とした合計点で以下の表の評定になります。』

評定	観点合計	観点別評価 (ABCの組み合わせ順は複数あり)
5	12点	AAAA
4	11点	AAAB
4	10点	AABB AAAC
3	9点	ABBB AABC
3	8点	BBBB ABBC AACC
3	7点	BBBC ABCC
2	6点	BBCC ACCC
2	5点	BCCC
1	4点	CCCC



技術担当
荒井克典

それぞれの観点について

1. 『生活や技術への関心・意欲・態度』

授業に関心を持ち意欲的なら行動も伴います。作業記録の感想記入らんにも「今日の授業で、自分が具体的に何をして、どう思ったか」など事実を記入できるはずですが、授業に参加し、学習すれば、何か記入できることがあるはずですが、もしも、記入のしかたがよくわからない場合にはどうぞ質問してください。

- ・作業記録の感想(関心意欲)に、その時間に学習した内容が具体的に書いてあれば「A」、具体的にない場合などは「B」、書いてないときは「C」とします。授業・家庭学習の記入(最高35回)を集計し評価します。

2. 『生活を工夫し創造する能力』

作品の製作には工夫が必要な部分もたいへん多く、作品づくりは工夫としてまず評価します。定期試験にも工夫して答える出題があり、こちら工夫としての評価に入れます。

- ・作品の提出、作図、製作レポート、ワークシートなどを、使用できる状態など満足な状態で提出した場合は「A」、不十分でも提出した場合は「B」、取り組まない・提出しないときは「C」とします。また、定期テストでは全ての工夫問題のうち約8割を正解すると「A」、約2割以下を「C」、それ以外は「B」と評価することを原則とします。

3. 『生活の技能』

技術では学習したことを実際の製作実習で用いる体験をします。技能を身につけることは目標の一つとなっています。そこで、道具類やコンピュータ等の使用、提出の方法なども技能の観点で評価します。定期試験にも技能を確認する出題があり、技能としての評価に入れます。

- ・作業記録、作品提出、作図、製作レポート、ワークシートなどを、使用できる状態など満足な状態で提出した場合は「A」、不十分でも提出した場合は「B」、取り組まない・提出しないときは「C」とします。また、定期テストでは全ての技能問題のうち約8割を正解すると「A」、約2割以下を「C」、それ以外は「B」と評価することを原則とします。

4. 『知識・理解』

技術的な知識を正しく理解しているかを評価する観点です。

- ・定期テストの知識を確かめる問題の、約8割の正解で「A」約2割以下を「C」、それ以外は「B」とします。